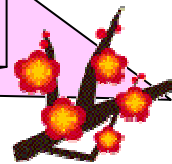
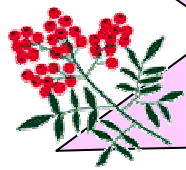


# 新生会看護部通信

2008.1.1 発行 第17号



## 2008年『ワーク・ライフ・バランス』を考え、 看護師の成長から成熟へ

看護界は看護の質の向上を目指し、看護師のキャリアアップ、成長支援などと、専門職としても知識・技術を身に付けることの大切さを唱えてきました。しかし、上昇志向だけでは息切れがして長続きしません。つまり、「個々・組織の成長から成熟」へと変化させていくことが大切です。「何のために専門的な知識・技術を身につけるのか?」「患者の困りごとを看護師として支援していくために、身につけたい知識・技術ではないのか?」看護実践の現場は、そんなシンプルなことを見失っているのではないのでしょうか。充実感を得るためには、これまでの患者との関わりを通して、自分の看護を振り返り、じっくり看護を考え、深く味わうことで、自分とこれまでの看護を肯定することができ、自我が励まされます。新生会看護部では、「ワーク・ライフ・バランス」を視野にいれ、「看護の醍醐味(深い味わい・本当のおもしろさ・楽しさ)」を味わうことができ、看護師の成熟に向けた環境を整えていきます。

【看護部長 岡山ミサ子】



だいきみ

### 看護の醍醐味「患者とのエピソード」



2007年6月、新生会・十全クリニックの看護師に患者さんとの関わりの中で感じた看護の醍醐味「患者とのエピソード」を募集しました。31名の方からエピソードが寄せられました。その一部を紹介します。

#### Aさん (看護経験年数：3年)

透析施設を移動する患者さん(受持ち)がおり、移動先の施設へ申し送ってほしい大切なことがあるかを聞いた。その患者さんから、「**あなたみたいな看護師がいてほしい**」と言われた。その患者さんは、『透析をやっているにもこんなに元気で、仕事もできるし楽しく生きられることをみんなに(他のHD患者)伝えたい。みんなもそのようになってほしい』と常に話していた。それに添えるよう関わってきたと思う分、患者さんの言葉がとても嬉しくて、**自分の中にすごく大切なことばとして残っている**。この患者さんのことばは、**私にこれから先のやる気と自信**をくれた。

#### Bさん

(看護経験年数：5年)

就職をして1年目頃、呼吸器をつけた患者さんが自発呼吸が出現し抜管となる。リハビリが開始され抜管後のことについて話をしたときに、患者さんに『**呼吸器がはずされた時に、あなたが笑顔でいてくれた時、うれしくてよかった**』と言われた。

その後、症状が安定し、退院した。退院して1ヶ月検診時に病棟に来てくれて呼び出され『**元気になったよ**』と笑顔で話をしてくれた時に看護職で良かったと思った。『**まだまだ半人前だけど、いつか一人前になれる**』と言われた。

#### Cさん

(看護経験年数：16年)

10年頃前、ALS末期の患者、人工呼吸器装着中、年末年始外泊希望有:ストレッチャーにのり患者の身体の上に小テーブルを置き、その上に呼吸器をのせ、病院近くの自宅まで無事到着。年末年始を自宅で過ごされる。帰院後、**泣いて喜んで**いた。工夫すれば出来る事は多い。**大変な事ほど達成できたときの感動は大きい**。外泊し、お正月を家族と共に過ごせてよかった。

#### Dさん (看護経験年数：30年)

怒りをぶつけてきた患者の話の聞いているうちに、最後に『**ごめんね、ありがとう**』と患者が言ってくれたとき。穿刺困難で患者もスタッフも不安がっている時に、穿刺に入ってから成功した時の患者の安心した顔を見たとき。

『**家族に対して、いつも「ありがとう。ありがとう。」と言っていると、気持ちよく世話をしてくれる**。自分の思い通りではなくても、やってもらう以上は感謝している。感謝の気持ちは伝えなくてはね』という患者さんの話を聞いて、自分も反省した。



# 「十全クリニックにおけるプリセプターシップ」

★OJTの実践★  
シリーズ3

【十全クリニック主査 加藤直美】

十全クリニックでは、入職した新人スタッフ（Ns、CE、CS）に、プリセプター・アシエートがつき、毎月行なわれる新人評価会議によって個々にあった支援・教育を行なっています。そのプリセプティたちもひとり立ちして、スタッフ員としてがんばっています。十全クリニックでは、このようにチームで育てるOJTを行なっており、ここで紹介させていただきます。



## 【新人評価会議】

### プリセプティ

患者様からの「ありがとう」の言葉に幸せを感じます。これからは楽しく働けるようがんばります。

### プリセプター

一人一人に合わせた指導を計画して目標を立て、スタッフ員として働けるように支援しています。



### プリセプター

この指導でいいのかと常に悩んでいました。アシエートの方々に助けられました。

プリセプティ  
丁寧な指導で自分の自信に繋がります。

### 評価会議

プリセプティの到達度や今後の方向性を話し合います。またプリセプティやプリセプターの思いや要望を聞いています。



## 【ケアスタッフ・学生への指導】



## 【新人看護師への指導】



### ★アシエートより一言★

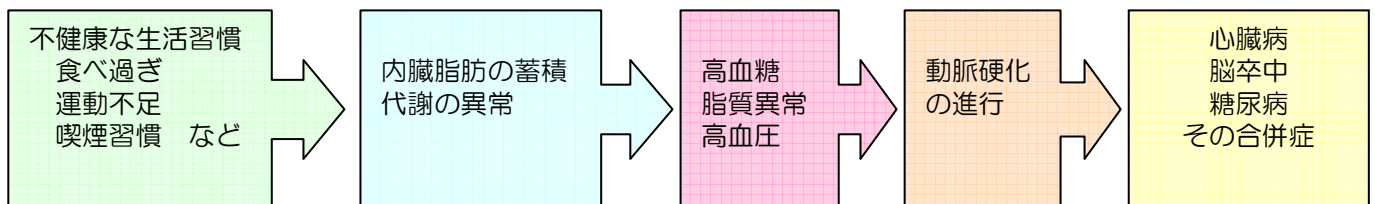
プリセプティに対する支援について、カンファレンスや会議のときに他のスタッフに報告し、意見を聞きながら、チーム全体でプリセプターとプリセプティの成長を見守るようにしています。

## 特定健診・特定保健指導がスタートします！！

【在宅透析教育センター 主査 村瀬智恵美】

平成20年4月からメタボリックシンドロームに着目した新しい健診（特定健康診査、以下「特定健診」）と保健指導（「特定保健指導」）が始まります。皆さんは、メタボリックシンドロームについてご存知ですか？

メタボリックシンドロームとは内臓脂肪型肥満に高血糖、脂質異常、高血圧のうち2つ以上を合併した状態といわれています。メタボリックシンドロームは下図のように進行し、放っておくと心臓病や脳卒中、糖尿病などの深刻な生活習慣病を引き起こします。  
(けんこう百花58号より引用)



特定健診は40歳～74歳の方全員が対象です。（私たち職員も対象です）健診でメタボリックシンドロームまたはその予備軍を発見し、特定保健指導で生活習慣改善のアドバイスを行います。

メタボリックシンドロームかなあ・・・  
生活習慣を見直そう・・・



# 水分管理不良患者へのかかわり

だいごみ  
看護の醍醐味シリーズ3

最近、私が看護師をしていてよかったと思ったことを書かせていただきます。

【鳴海クリニック 佐藤博子】

## 患者の状態

A氏56歳女性、HD歴15年、一人暮らし、不安神経症、腰椎DSAにて歩行障害、冠動脈高度狭窄等、合併症あり。体重増加率1日空き平均6.1%2日空き8.5%と多くHD中BP下降をきたし除水困難な状況で心不全にて入退院をくりかえしていた。増加が多いことで指導を繰り返しおこなっていたが、「内服薬が多いので水をたくさん飲む。眠剤、安定剤は減らせない」と25~30種の薬を内服するのに1日にペットボトル5~6本を飲み、HD中は薬が効きすぎて傾眠傾向で血圧下降も度々あった。

## 看護師の関わり

薬を減らす事が出来ないなら少しの水で薬を飲む方法を一緒に考えようと話をした。そして、幼児用の内服ゼリーの提案をしたら、すぐに購入し実行してくれた。半年で増加が1日空き5%、2日空き7.5%と減少した。その行動に対しやれば出来ることを褒め励ました。

## 患者の反応

1年半で1日空き3.8%、2日空き5.2%とさらに減少した。「眠剤や安定剤は、自分で調節してへらしているよ。壁を叩く音は聞こえるけど、なるべく考えないようにしている。自分が食べるものの献立ぐらいは考えてヘルパーに作ってもらうようにしている。」と自分から言えるようになった。

## 看護師の考え

看護者側のほんの少しの助言が患者の行動変容につながった事例に出会うことができた。また自分もこの患者様と年齢が近いこともあり親身に話しを聞いたりすることができた。



## セルフケア中級編

【在宅透析教育センター 主査 牧野範子】

2007年度は、現任教育委員会では、セルフケア基礎編を終了した方を対象に中級編を行なっています。各部署から約1名の受講生を募って、8名の受講生といっしょに学びを深めています。12月27日の事例発表に向けて、取り組んでいる最中です。

【目的】 所属部署において、セルフケア支援をしていく上でのリーダーシップがとれる人材を育成する。

【目標】 ①セルフケア支援のための理論がわかる。

②アプローチ方法の概要がわかる。

③事例を通して困難事例のアプローチができる。

【対象】 新生会第一病院・十全クリニック・東海クリニック・東海知多クリニック・鳴海クリニック・金山クリニック（計8名）

【期間】 2007年8月30日・10月25日・12月27日一学習会（集合）を開催。9月、10月は受講生が所属する各施設で、『個別学習会』を開催。

【内容】 一人一事例を提供して、セルフケアの支援の方法を学びながら実際に患者にセルフケア支援を行う。

講義内容：変化ステージの概要・PAID他ツールの種類と使用方法・看護カウンセリング・自己効力感など



## 『個別学習会』の風景と受講生の声



十全クリニックでの一場面

・事例について、どの部分に着目してアセスメントすればいいかを個別にアドバイスしてもらえたのが良かったです。

・患者の自己決定を待つ姿勢が大切であること、押し付けでは本当の支援にはならないことが分かりました。

・ヘルスブリーフを聞き取りしながら患者との会話が深まり、色々自分の事を話してくれて信頼関係ができていく事が分かりました。



鳴海クリニックでの一場面

・自分自身も氣質シート・チェックシートなどを行い自己コーチングできました。

・他の受講生の事例とアドバイスも聞いて参考にになりました。